

書評

渡辺俊之・本田哲三 編集

リハビリテーション患者の心理とケア

蜂須賀研二（産業医科大学リハビリテーション医学教室）

「リハビリテーション患者の心理とケア」は、本の題名を見てすぐに読んでみたくなりました。長年、リハビリテーション医療に従事していると、心理的問題を持った障害者の対応やこれらの患者のケアに悩むことは稀ではなく、リハビリテーション従事者には待望の企画と言えます。

この本は、渡辺俊之先生（東海大学医学部精神科）と本田哲三先生（東京都リハビリテーション病院副院長）の編集で出版されました。編集者の渡辺先生は精神科医ですがリエゾンの観点からリハビリテーション医療に大変造詣が深く、一方、本田先生はリハビリテーション専門医ですが、以前から障害受容や障害者の心理に深く関わっており、立場は異なりますがこの領域をリードしてきたお二人です。これらの著名な先生方が豊富な臨床経験に基づき、リハビリテーション医療関係者が知っておかなければならない障害者の心理に関する基本概念や、具体的に遭遇する問題とその対処方法を解説しています。

主な内容は、「リハビリテーション医療と心理、障害受容、心理とケア、QOL、治療関係、家族への関わり、治療場面における心理的問題、技法」であり、執筆者は渡辺・本田先生の他に、その分野の専門家

である医師、看護婦、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、言語聴覚士などが、易しい言葉で事例を交えながら執筆しています。全体的に分かりやすい文章であり、心理が専門でないわれわれ一般臨床家にも気軽に違和感なく読めるのが特徴であり、執筆者らの患者さんに対する接し方やその姿勢が文面から伝わってくる印象があります。また、それぞれの執筆内容の最後に簡潔なまとめが固めで付け加えられており、読者が整理し、理解するのに役立ちます。

この本は、リハビリテーション医療に参加する医師、看護婦、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、義肢装具士、さらに福祉関係者、障害を持った患者さんのお世話を実際に行っている配偶者や家族の方に是非読んでいただきたい一冊です。この本は障害者の心理とケアに関する医学知識を啓発するばかりではなく、障害者に対する自らの基本姿勢に何らかのインパクトを与えるものと、私は確信しています。また、「医療と心理、障害受容、治療関係、家族への関わり」は、今後のリハビリテーション医療の指針となるでしょう。

（A5 頁260 2,800円＋税 2000 医学書院刊）